

皆さんから寄せられた主な意見を紹介し、その疑問に Q&A 形式でお答えします。

Q1 同性カップルが増加して子どもが生まれなくなり、結果的に少子化に拍車がかかるのではないかな

A 自らの性をどう思っているか(性自認)や恋愛感情がどの性に向いているか(性的指向)は、自分の意思で自由に変更できるものではありません。本制度を導入することで性的少数者であることを表明する人は増えても、性的少数者の人が増えるわけではありません。これまでどおり多くのカップルは異性婚を選択するため、少子化への影響は極めて少ないと考えます。

Q2 市内の児童・生徒に対しての性的少数者に関する人権教育はどうなるのかな

A 性的少数者に関する人権教育は、児童・生徒が自分や周りの人の性自認・性的指向が違ふと認識したときに、いじめや不登校、自傷行為に発展することがないように、性の多様性や性的少数者についての正しい知識を伝えていくものです。児童・生徒に対して、同性愛を推奨するものではありません。

Q3 同性愛を推奨したり、誤った家族観を植え付けるなど、社会に混乱をもたらすのではないかな

A 本制度は、性的少数者の生きづらさを解消するための支援を目的としています。市民に対して同性愛を推奨したり、現行の婚姻制度や家族観を否定するものではありません。現在147の自治体が入入していますが、社会に対して大きな混乱や悪影響を与えたり、法律に基づく婚姻制度の根幹が揺らいだという実態はありません。

パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度

近年、性的少数者は、さまざまなメディアで取り上げられるなど、人権課題として幅広く認知されるようになってきました。また、国や全国の自治体では、性的少数者の人々が安心して生活し、活躍できる社会の実現のため、条例や指針の改正などの動きが出てきています。

しかし、法律に基づく婚姻届は認められていないことから、行政サービスや民間サービスが制限され、日常生活を送る上でもさまざまな差別や偏見におびえながら暮らすことを余儀なくされている性的少数者のカップルやその子どもがいます。

性的少数者の人々が、大切なパートナーやその子どもと共に人生を歩んでいく上での支援となる行政サービスの一つとして「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」があります。

福津市でも制度を導入

平成27年3月、地方自治体

「性」の在り方は十人十色

世の中には男性と女性がいる、思春期になったら異性を好きになって、結婚し家庭をつくるのが「普通」だと思っ
ていませんか。しぐさや言葉遣い、好きになる性別など「性」には人の数だけ違いがあります。これは、個人の趣味や一過性のものではなく、本人の意思で変えられるものではありません。

性的少数者を表す総称の一つに「LGBT」があります。下図のLGBT以外にもアセクシュアル(他者に恋愛感情を抱かない人)など、他にもさまざまな人がいます。

平成30年に株式会社LGBT総合研究所が行った「LGBT意識行動調査2019」によると、LGBT・性的少数者に該当する人は全体の10%という結果が出ています。「本当のことを伝えたら嫌われるのではないかな」「ばれたらいじめられるかも」と、無理解や偏見を恐れて打ち明けることができていないだけで、性的少数者の当事者は私たちの周りに当たり前にいます。

問い合わせ 市人権政策課 ☎43・8129

が同性同士の関係性をパートナーとして証明する日本で初めての施策として、東京都渋谷区で「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例」が成立。同性カップルを「結婚に相当する関係」として、区が証明書を発行しました。それ以降、全国の自治体で同様の施策が増えていきます。令和3年12月31日現在、147自治体でパートナーシップ宣誓制度が取り入れられ、2537組が証明を受けています(認定NPO法人虹色ダイバーシティホームページから抜粋)。

これと同様に、市でもパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度を4月1日から導入します。要件を満たしていることが認められた場合に「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓書受領証(以下、受領証)」を発行します。この受領証には、法律に基づく婚姻と同等の権利はないため、限定的ではありますが、受領証を提示することで行政サービスや民間サービスなどを受けられるようにするためのものです。

LGBTって何だろう？ 下の4例は多彩な性の在り方のほんの一例です。全て明確に区別できるものではありません

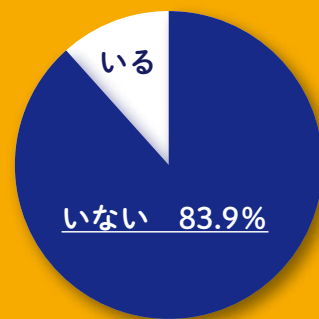
L レズビアン
女性として
女性が好きな人

G ゲイ
男性として
男性が好きな人

B バイセクシャル
好きになる人の
性別を問わない人

T トランスジェンダー
生まれたときの体の性と
心の性が一致していない人

8割以上の方が、身の回りに
LGBT・性的少数者はいないと回答



なぜ？

LGBT・性的少数者のカミングアウト(公表)率が低く、顕在化しにくくなっている

全国の20～60代のうち
10.0%が性的少数者



でも…

性的少数者の人権が 尊重される社会を目指して

市では、4月1日から「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」を導入することとなりました。

市は「第2期福津市人権教育・啓発基本計画」で性的マイノリティ(性的少数者)の人権を、解決すべき人権課題の一つとして捉えています。つまり、多様性に対して寛容な社会を構築するためには、市民や教育の場での教職員や児童生徒に対して、性的少数者に関する正しい理解と認識を育むための積極的な啓発活動に取り組む必要があります。

ひと昔前まで、性的少数者に対するメディアの扱いは嗜好や嘲笑の視点で描かれ、いたずらに差別や偏見をあおっていたという点は否めません。しかしながら、最近では性的少数者の実態に寄り添って描かれた良質な映画、書籍などのメディアが増えてきました。

制度導入に際し、市内外を問わず、性的少数者の多くの当事者の生の声に向き合いました。差別や偏見に無自覚かつ容赦ない言葉を浴びせられて心を切り裂かれ、もがき苦しんだ果てに自分らしく生きるという境地に達し、人生の光が見えたという体験談に触れることができました。また、圧倒的な多数派である異性愛者という立場が、いかに今まで疑いすら持たず常識と捉えていたのかを思い知らされました。

身近に性的少数者の当事者がいない場合、他人事だと感じるかもしれません。しかし現に、皆さんの隣にいるかもしれないし、わが子がそうかもしれません。もし当事者からカミングアウトされたら、その人のありのままを受け入れることが大切です。

本制度の導入が、性的少数者の生きづらさを少しでも解消するための礎となることを願ってやみません。



市人権政策課長兼
男女共同参画推進室長
青谷 哲也



▲正しい知識を持つことが大切だと語る三浦さん

「幸せ」より「楽」になりたい

自分がゲイだと認識してからも、それを受け入れることはできなかった三浦さん。周りの人に打ち明けられず、自

分を偽って生きていました。しかし、27、28歳のとき限界がきます。追い詰められ、常に孤独を感じ、絶望感でいっぱいでした。「幸せになりたい」ではなく「楽になりたい」と考え、悩み、出した答えが「ありのままの自分で生きていく」ことでした。自分らしく生きていくと決心してから両親にはなかなか打ち明けられなかった三浦さん。打ち明けることで仕事や友達、家族を失うかもしれない葛藤と戦っていました。両親に打ち明けたのは30歳のとき。言葉では到底伝えられず、手紙を何回も書き直し

現状と意思を伝えました。母から手紙の返事が来たのはその1カ月半後。手紙には母が自らを責める内容がつけられていました。また、その手紙の最後に「あなたが息子であることには変わりないよ。あなたの幸せを願っている。私は応援するよ」という言葉が記されていました。三浦さんはこれを見たとき「30年間背負ってきた荷を下ろせた」と言葉では言い表せないほどの幸せを感じたといいます。

当たり前前
の
ことを
当たり前
前に
したい

両親に打ち明けた後、自分

「自分らしく生きてほしい」

らしく生きることで仕事も私生活もあらゆることが好転した三浦さん。カミングアウトすることが必ずしも幸せになれる道ではありませんが、とにかく「自分らしく生きてほしい。そして、もし悩んでいる人がいたら、支援団体や相談窓口で電話を掛けてみてほしい」と言います。

「わたしたちは特別扱いしてほしくないわけではない。当たり前前

の
ことを
当たり前
前に
したい」三浦さんは、今日もLGBT当事者だけでなく、全ての人が自分らしく生きられる社会の実現を目指して活動しています。

アウティングは 重大な問題です

「あの人、ゲイなんだって」「元々は女性だったらいいよ」などと、本人の了解なく周囲に伝えてしまう行為をアウティングといいます。友達にカミングアウトした大学生がインターネット上で暴露され、その後自死するという事件も起きています。アウティングは、命にも関わる重大な問題なのです。

アウティングされてしまうと、周囲との信頼関係が壊れ、居場所を失うことになりかねません。また、暴露情報がどの範囲に広まっているのか確認できないため、常に、周りから好奇の目で見られているのではないかと、あるいはいじめられたり、職場を追われるのではないかとといった不安を感じるようになります。

カミングアウトされたら、本人の意向を十分に確認しましょう。

NO!
アウティング

GID Link代表
椎太信さん
「性同一性障害」
「女性の体に生まれながら、物心ついたところから男性だと思っていた」という椎太信さん。性別適合手術を受け、現在は戸籍上の性別も男性です。30年ほど前までは性同一性障害という言葉すらなく、説明のしようがないため「自分はおかしいんだ」と思い悩む

ただ当たり前
に
生きて
いたい
だけ

知ってほしい
当事者の
思い

日々を過ごしていました。

自分を隠し
生きづら
い日々

学生のころ、嫌だったのは制服。しかし当時は、それで悩む人がいることすら認識されていなかった時代でした。また、女子トイレに入ると悲鳴を上げられたり、クレジットカードに署名した「信子(戸籍変更前の名)」の名前と見た目が違うことで身分照会をされたりと、生きづらい日々を



▲講演会で啓発活動をする椎太さん

「自信を持って ありのままに 生きてほしい」

三浦さんは、男性として生まれ、好きになる対象も男性のゲイです。小学6年生くらいのころから周りの男の子が「〇〇ちゃんが好き」と言っていることが理解できず、違和感を持っていました。はつきりと自分がゲイだと認識したのは高校生のときだったとい

NPO法人カラフルチェンジ
ラボ代表理事
三浦 暢久さん「ゲイ」

G

な世代・職業の人たちが勉強する時代になっている。それなのに、当時の悩みと今の子どもたちの悩みは全く変わっていない」と嘆く椎太さん。「LGBT当事者が何に困り、何が嫌なのかに周りは気付いていない。子どもたちはどう表現したらいいかわからないから、大人になった僕たちが代弁しなければ」と現在の活動を始めたといいます。

「偏見を作っているのは私

たち大人」。当事者が安心して暮らしていくため、子どもたちの保護者や地域の人に理解してもらえよう、椎太さんは啓発活動を続けています。

福岡県内の人権相談窓口

みんなの人権 110番(法務局)☎0570・003・110

福岡県福祉労働部人権・同和对策局調整課☎092・643・3325

北九州市人権推進センター☎093・562・5088

福岡市人権啓発センター(人権啓発相談室)☎092・717・1247

弁護士による無料法律電話相談

ふくおか人権ホットライン☎092・724・2644

LGBT無料電話法律相談☎070・7655・1698

県内の LGBT関連団体

GID Link



特に性同一性障害の当事者の支援を目的としています。定期的に交流会を開催し、性に関する基礎的な内容を中心に情報提供などを行なっています。

NPO法人カラフルチェンジラボ



LGBTをはじめとするセクシュアル・マイノリティ(性的少数者)を筆頭に、世の中の差別や偏見から子どもたちを守り子どもたちが前向きに、自分らしく生きていく事ができる社会の実現を目指しています。



NPO法人 LGBTの家族と
友人をつなぐ会(福岡)



一般社団法人 gid.jp 日本性同一性障害
と共に生きる人々の会 福岡支部



NPO法人 Rainbow Soup

Haco



FRENS

